

日時：令和4年3月22日（火） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5階 共用第1会議室

釧路湿原自然再生協議会

第11回地域づくり小委員会

議事要旨

■議事次第

- 1) 委員の話題提供
- 2) 令和3年度 地域づくり小委員会取り組み状況報告
 - ① 委員会事案・事務局事案
 - ・活動報告書、カヌーガイドライン、農業関係者意見交換
 - ② 委員事案
 - ・かわたび北海道
- 3) その他

櫻井委員からの話題提供のあと、令和3年度の地域づくり小委員会取組状況について委員会事案、事務局事案、委員事案の順に報告があり、それぞれについて討議した。

■議事1:委員の話題提供：櫻井一隆委員「農業と釧路湿原の保全」

<内容の概要>

標茶西地区農地・水保全隊は排水路や農道の草刈りなどを実施し、遊休農地の発生防止に取り組みながら農地の土砂などが湿原に排出しないよう、沈砂池の適正な維持管理や水質の保全に取り組んでいる。平成15年に釧路湿原自然再生協議会が発足した頃の平成14年に国営総合農地防災事業が発足して、完成後の土地の保全管理が必要となったのに合わせて地域資源保全管理活動として平成20年に活動開始となった。

活動の中から3点を紹介すると、1点目の沈砂池の砂上げはサケの遡上と降下の時期を避けて1月から2月に行っていて、濁水の処理をしながら沈砂池にたまった土砂を排出していること、2点目の草刈りは管理用道路と排水路で行っていてこれも農地保全の一環であること、3点目は子どもたちの生き物調査で学校と協議しながら続けているということ、これらが地域で行っている活動である。

<質疑応答>

《委員》

- ・ 生き物調査の中止要因となったクマの件は、リモートセンシングの技術でわかるかを質問したい。

《委員》

- ・ 湿原ではシカの調査で使われている。ドローンも使ってモニタリング調査できる方法がこれからできていくのではないかと思う。

《委員》（吉中）

- ・ この地域づくり小委員会目指しているのは、まさにこのような活動だと思う。このような活動が活発になっていくことを目指していくということを示してもらった。

■議事2: 令和3年度 地域づくり小委員会取り組み状況報告

<質疑応答>

【活動報告書】

特になし。

【カヌーガイドライン】

《委員》

- ・ カヌーガイドラインは、カヌーネットワークで新しくつくるホームページでも周知していきたい。
- ・ 入川届の箱がカヌーポートに設置してあるが、QRコードを読み込んで届出して、必要などにだけ提出するというのも良いと思うので、改めてやってもらいたい。

《事務局》

- ・ ホームページ掲載の件はぜひお願いしたい。
- ・ 入川ボックスについては、個人情報の管理、河川の自由使用の観点から河川管理者の対応は難しいです。

《委員》（北開水工コンサルタント 新庄）

- ・ ポケット版について、車を置ける場所、川の危険箇所の情報があるか気になった。また、カワセミやタンチョウなどをどの付近で何時ごろ見られるかなどの情報はどうか。

《事務局》

- ・ 駐車場、危険箇所は図面上に明記している。そのほかの情報については、載せられる情報が限られるので、ヒアリングしてきたなかで最も重要そうなものを抽出した。

【農業関係者意見交換】

特になし。

【かわたび北海道】

《委員》

- ・ かわたびの取り組みはとても良い。コロナ禍でソロキャンプ、自転車文化などが進んでいる背景もあり、ぜひ、かわたび、うまたび、チャリたびで、さらに推進して行ってほしい。

《委員》（開発局）

- ・ 国交省は運営をしたわけではなく川を利用するのをお助けしたというだけで、実際やっているのは標茶町と、ホースタウンプロジェクトという民間の方。皆さんが川を使ってこういうことをやりたいんだと言ってもらえれば、我々から、こういった使い方できますよとか、駄目なところは駄目とアドバイスできるので、ぜひ相談してください。

《委員》

- ・ 子供が健やかに成長するためには、外で太陽の光を浴びていないと目が育たないと言われていて、釧路湿原や釧路川の周辺は外に出かけて自由に走り回るのに絶好の場所で、今この釧路の湿原の周辺に住む私たちには、非常に恵まれた状況が残っているということ。だから観光という言葉だけに縛られないで、観光をこえて、もっと人間の生きる生活の豊かさを少しでも増やすためにということを考えていくと良いと思う。

■閉会

- ・ 本日の小委員会で議論された内容について今後検討を進め、次回の小委員会で委員各位とともに議論を進めていきたい。